

岡山県の土地改良



新年のご挨拶

岡山県土地改良事業団体連合会
会長 石井 正弘

まず、令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

被災地域の皆様の安全・安心の確保、そして一日も早い復旧・復興を心からお祈りいたします。

さて、会員の皆様方には、謹んで新年のご挨拶を申し上げますとともに、平素から当会の運営並びに農業農村整備事業の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

社会活動がコロナ禍以前に戻りつつあるなど、明るい兆しが見えていますが、地球規模の異常気象に伴う大規模災害の発生やウクライナ危機の影響などにより、エネルギーや原材料価格の高騰、食料の安定供給の不安定化など、日常生活はもとより農林水産分野においても依然として大きな影響を受けている中で、皆様方が各地域でご努力・ご尽力されている様々な活動に対し、深く敬意を表する次第であります。

国は、食料安全保障にも関わる大きな情勢の変化や課題の顕在化を受けて、食料・農業・農村基本法の総合的な検証と見直しを進めており、今月召集される通常国会に改正法案が提出される予定であります。

また、平成30年7月豪雨から5年が経過し、復旧工事に加え改良工事が着々と進められていますが、近年、豪雨や地震等の自然災害が激甚化・頻発化しており、過去に例を見ない甚大な被害が全国各地で発生している現状があります。

そのような中、県内では、営農が困難となる水田や荒廃した水田を、樹園地に適したほ場に再整備する取り組みが行われ、新規就農者や規模拡大農家が産地を拡大するとともに、農業従事者が若返り、地域が活性化した好事例が生まれています。

また、県内には、防災重点農業用ため池が約4千か所ありますが、近年決壊したほとんどは豪雨が原因という中で、県が進めている豪雨耐性評価では、これまでに調査した約1/4は洪水を安全に流下させる能力が不足している現状が判明し、洪水吐の改修等の豪雨対策を先行して段階的に整備することを国に提案し、関心を得るなど、より多くのため池の決壊リスクを低減することに取り組んでいるところであります。

これらを進めるために必要となる令和6年度農業農村整備事業関係当初予算は、4,463億円が閣議決定され、これに5年度補正予算を加えると、6,240億円を確保することが出来ました。これもひとえに、皆様方のご理解ご協力と熱心な要望活動の成果と感謝申し上げます。

こうした状況を踏まえ、創立から66年目を迎えた本会では、今後とも会員の皆様方の付託に応えるべく一層努力してまいりますので、引き続きのご指導ご鞭撻のほどよろしくお祈りいたします。

結びに、今年一年の皆様方のご健勝とご多幸をお祈りし新年のご挨拶といたします。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博

令和6年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

本年元日に石川県能登地方を震源とする「令和6年能登半島地震」が発生し、北陸地域を中心に甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方のご冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当会も被災地域の日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりますので、関係各位におかれましてもご支援をお願いします。

昨年は、国内では新型コロナウイルス禍が一段落する一方、ロシアによるウクライナ侵略に加え、中東においても軍事衝突が起こるなど、国際的な混乱が続く年となりました。

国内においては、農業者の高齢化や減少が進み、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、資材価格と電力料金の高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような情勢の中、命を支える食料の確保は、後回しにできない国民ニーズであり、食料安全保障の強化は、国家の最重要課題とされ、食料・農業・農村基本法の見直しにおける大きなテーマとして議論されています。

我々は、食料安全保障の確立の観点からも、食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

令和6年度農業農村整備事業関係予算につきましては、全国の関係者の皆様の熱意ある要請活動の結果、政府予算案において、4,463億円を確保することができました。令和5年度補正予算を含めると昨年度を上回る6,240億円となります。

御尽力いただいた関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第5次男女共同参画基本計画や土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、残された期間は2年余りとなります。

将来の土地改良組織の体制強化・発展のために女性の参画を積極的に進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

私は、本会の会長に就任以来、「闘う土地改良」を旗印に組織一体となって闘ってまいりました。土地改良の代表として進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員が「車の両輪」となって、皆さんの声を聞き、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声を国会に届けるためにも、お2人の活動の支援をお願いいたします。

「農業農村の振興」を果たすためには、限りなく闘い続けていかなければなりません。男女ともに一致団結して、更なる闘いを続けていこうではありませんか。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げまして、私の新年の御挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
財務大臣政務官
参議院議員 **進藤 金日子**

新年、明けましておめでとうございます。

本年は元旦から能登半島地震が発生いたしました。お亡くなりになられた方のご冥福を心からお祈りいたしますとともにご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。また、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。被災地域の復旧、復興に向け、私も全力を尽くしてまいります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

岡山県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、旧年中大変お世話になりました。昨年末、財務大臣政務官を拝命いたしました。本年も現場主義、地域主義に徹し、国家の発展と農業農村の振興のため全力を尽くしてまいります。本年もよろしくお願い致します。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、国民の生活も平穏を取り戻しつつあります。一方、ロシアのウクライナへの侵略は昨年も収束せず、10月にはイスラエルとパレスチナの紛争も勃発しました。こうした状況下において、エネルギー価格、小麦・とうもろこし等の穀物価格、飼料価格や肥料価格、資材価格等も概して高止まりの傾向にあり、物価上昇が国民生活を圧迫しています。

土地改良予算については、昨年11月に成立した令和5年度補正予算で1,777億円（TPP等対策：760億円、食料安全保障対策：460億円（うち重複300億円）、国土強靱化5か年加速化対策：857億円）が措置され、令和6年度当初予算政府原案の4,463億円と合わせて6,240億円となり、令和5年度予算よりも106億円上回る予算を確保しました。この予算額で各地域において必要な事業を計画どおりに実施可能かどうか、現場の実情をしっかりと精査していく必要があると考えています。

さて、今年の農政における大きな課題は、食料・農業・農村基本法の改正です。政府が昨年6月に決定した「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」の具体的な施策の内容について、自民党では昨年9月から「農業基本政策」、「農地政策」、「食料産業政策」の3つの検討分科会を設置し、私も参画して少数のメンバーで議論を重ねました。昨年末には、検討結果を取りまとめ岸田総理へ提言を行うとともに、「食料安全保障強化政策大綱」の改定に当たって提言内容が反映されました。この大綱が本年の通常国会に提出される食料・農業・農村基本法改正案や関連法案、予算制度につながってまいります。

提言は、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」、「人口減少下における生産水準の維持・発展、地域コミュニティの維持」の観点から構成されており、生産基盤の維持につながる農地の確保、農業生産基盤整備と保全の推進、人材の育成と確保等、今後進めるべき主要施策を具体的に提言しています。

私は、従来から我が国の食料供給力（食料自給力）の強化に当たっては、①農地・農業用水等の農業資源の機能の維持・向上を図る土地改良対策、②農業者を確保・育成する担い手対策、③農業技術の向上を図る試験・研究、普及・生産対策を別々でなくパッケージで早急に実施することが必要と訴えています。

「食料自給力」の最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、農業者の激減が見込まれる中で農地と水の持っている機能を維持・増進する土地改良はこれまでも増して重要となります。私は、本年も土地改良予算の安定的な確保に努め、法律の整備や制度の拡充等土地改良事業の環境整備を行い、農業農村の振興に向けて更に邁進してまいります。皆様からのご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、また、貴連合会のご発展とご繁栄を祈念し、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 宮崎 雅夫

元日夕刻に発生した「令和6年能登半島地震」において、尊い命を失われた方々に哀悼の誠を捧げさせていただきます。さらに、被害に遭われ、不自由な避難生活を余儀なくされている皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、速やかな生活環境の確保・回復と、今後進められる農地・農業用施設を含む被害状況の把握や早期復旧に向けて、私も関係機関等と連携しながらしっかりと対応してまいります。

また、本件地震のほかにも、昨今の激甚化、頻発化する気象災害は、昨年も全国各地で風水害や土砂災害等が発生させ、さらに、夏場の高温や渇水など農業用水の安定供給にも影響を及ぼしています。被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げ、早期復興に向け皆様とともに力を合わせて対応してまいります。

さて、辰年を迎え、岡山県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、土地改良事業の円滑な推進、土地改良施設の適切な管理にご尽力いただいておりますことに心から敬意を表しますとともに、私、宮崎雅夫の国政活動に多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

私も皆様方から多くのご支援をいただきつつ、現場でお聞きした皆様の声を国政の場で発信し、また、たくさんのご要望等に対しても、それぞれの地域事情に即した解決策等に向け、全力で対応してまいったところであり、昨年11月に成立した令和5年度補正予算では、土地改良関係として、昨年度の補正予算から100億円増の1,777億円（食料安全保障強化対策160億円、総合的なTPP等関連対策760億円、防災・減災・国土強靱化対策857億円）を確保できました。この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料高騰分の7割を支援する制度を4月まで延長する対策も含まれています。加えて、12月に閣議決定した令和6年度当初予算案では、前年を上回る4,463億円が計上され、補正と合わせた総額は6,240億円となっております。これから行われる通常国会において早期成立に向け、参院予算委の理事として努力してまいります。

さらに、来る通常国会では、「農政の憲法」とも言われる「食料・農業・農村基本法」を四半世紀ぶりに改正する予定であり、我が国の食料安全保障のあり方や環境に配慮した農業・食品産業の推進、人口減少社会での食料供給基盤の強化等についてしっかり議論を進め、基本法に位置付けていく必要があります。さらに土地改良が担う重要な役割としての農地や水利施設等の整備・保全管理を含め、農業従事者数の減少傾向に対応するスマート農業等の取組推進や農業農村関係人口の拡大など、土地改良区の運営基盤の強化を図っていくことが重要です。

私も、引き続き「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を基本理念に、現場や地域の課題をしっかりと伺いし、皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保や制度の充実に向け、鋭意努力してまいります決意ですので、引き続きのご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、岡山県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様様の益々のご発展とご健勝を心より祈念申しあげ挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ ～儲かる産業としての農林水産業の確立を目指して～

岡山県農林水産部
部長 万代 洋士

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。また、元日に発生した令和6年能登半島地震により被災された皆様及びご関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、被災地の安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、皆様方には、平素から本県農林水産行政の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

岡山県は温暖な気候、豊かな水を湛えた三大河川、北に爽やかな蒜山高原、南に広大な干拓地と風光明媚な瀬戸内海など、全国屈指の自然環境に恵まれており、そこで育まれる農林水産物もまた、全国に誇れるものであります。

一方、近年の本県農林水産業を取り巻く状況は、人口減少や高齢化による担い手の減少、荒廃農地の増加に加え、燃油・肥料・資材高など厳しさを増しております。

そのような中、県では県政推進の羅針盤である「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」や、本県農林水産行政の基本計画である「21 おかやま農林水産プラン」に基づき、県産農林水産物のブランド力強化や、担い手の確保・育成、市場ニーズに応えることのできる産地の育成や供給力の強化、そして、これらを支える生産基盤の整備を進めております。

特に高い競争力を誇る桃やぶどうを中心に、新規就農者の確保・育成、生産基盤の整備などを一体的に行うハイブリッド産地育成推進事業に農林水産部内の総力を挙げて取り組むなど、時代の変化にも対応できる農林水産業の振興を図っているところであります。

今後とも、マーケットの動向を踏まえたブランド化の推進や、先端技術の活用などによる生産性の向上などに注力するとともに、地域が描く将来の農業に最適な環境となるよう、生産基盤の整備や老朽化した施設の保全対策を着実に進め、儲かる産業としての農林水産業の確立を目指してまいります。

さらに、頻発化・激甚化する自然災害から地域を守るため、防災重点農業用ため池の改修や廃止、治山ダムや海岸保全施設の整備等の防災・減災対策も引き続き進め、安全・安心な地域づくりに努めてまいります。

本年も関係団体の皆様方と連携し、本県農林水産業の一層の振興に取り組んでまいりますので、引き続きのご支援・ご協力を賜りますよう、お願いいたしますとともに、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
参与 大賀 則男

会員の皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、本県の農業農村整備事業の推進に当たりまして、格別の御支援と御協力を賜り、心からお礼申し上げます。また、この度の「令和6年能登半島地震」により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類感染症に移行し、県内に宿泊した外国人旅行客もコロナ禍前の7割ほどに回復するなど、県内各地でにぎわいや活気もどりつつあります。また、去年は、全国高校サッカーや全国中学校駅伝で、本県代表が県勢初優勝を成し遂げたほか、備前市出身で「奇跡の幼なじみ」と呼ばれるプロ野球オリックスバファローズの山本由伸選手と頓宮裕真選手の活躍も記憶に新しいところです。こうした岡山勢の活躍を受けて、県では、「いま、岡山がアツい！いま、岡山にアツまれ！」という熱い想いを込めた新キャッチフレーズ「岡アツ！」を発表し、この岡山旋風を加速させるべく、農産物など、岡山の良さを国内外にPRしているところです。

また、世界に目を向けますと、途上国を中心として世界人口は急増し、食料需要が増加する一方、気候変動による異常気象の頻発化や地政学リスクの高まりにより、世界の食料生産・供給は不安定化しています。こうした中、国は、食料安全保障を強化するため、農政の憲法といわれる「食料・農業・農村基本法」の検証・見直しを進めており、本年の通常国会での改正案提出に向けて作業が進められていると伺っております。

県では、こうした国の動向を見守りつつ、計画の最終年となる「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」や「21おかやま農林水産プラン」に基づき、“儲かる産業としての農林水産業の確立”を目指し、引き続き、担い手への農地の集積・集約化や市場のニーズに応じた収益性の高い作物の導入が図られるよう、効果的・効率的な生産基盤の整備に取り組んでまいります。また、基幹水利施設の長寿命化対策や農村地域の防災・減災対策にも計画的に取り組んでまいります。

本年は辰年ですが、辰は草木が成長して活力が旺盛になる状態を表し、また、龍は十二支の中で唯一空想上の生き物ですが、隆盛の象徴として古来より親しまれ、時代が動く年になるとも言われています。まさに、今年は新たな法律や計画が成立する年であり、それらに基づき本県農業・農村の活性化に全力で取り組んでまいりますので、会員の皆様の更なる御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして明るく幸多き年となりますよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
耕地課長 天野 哲也

会員の皆様方におかれましては、つつがなく新春を迎えられたこととお慶び申し上げますとともに、日頃から本県農業農村整備事業の推進に格別の御理解と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。また、この度の令和6年能登半島地震により、犠牲となられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された全ての皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症に伴う制約も緩和され、数年ぶりの「日常」を感じられるようになりました。また、去年は、世界的に「観測史上最も暑い夏」となったほか、8月には台風7号の襲来により、県内で初めて線状降水帯が確認されるなど、気候変動に伴う異常気象を身近に感じた1年でもありました。

こうした中、県では、「第3次晴れの国おかやま生き活きプラン」や「21おかやま農林水産プラン」に基づき、「儲かる産業としての農林水産業の確立」を目指し、産地の規模拡大や研修ほ場の設置等による担い手の確保・育成など、高品質な農産物の供給力強化に向けた総合的な取組を進めています。

中でも、本県が誇る桃やぶどうについて、アジアを中心に海外市場の評価は高く、輸出量は年々増加しており、ぶどうの輸出金額は10億円を突破しました。こうした市場のニーズに応えるため、県では、農地中間管理機構関連農地整備事業等を活用して水田を園地として再整備するなど、一層の供給力強化に取り組んでいるところです。

また、県では、四千箇所を超える防災重点農業用ため池について、防災工事等推進計画に基づき、ため池の改修や廃止、ハザードマップの作成など、ソフト・ハードを組み合わせた対策を計画的かつ集中的に推進しています。さらに、県が設置したため池サポートセンターを活用し、令和5年度からは、危険度の高いため池について、具体的な対策の提案を行うとともに、地元説明会にオブザーバーとして同席するなど、事業化に向けた地元合意のプロセスにおいても市町村への支援を強化しており、こうした取組を通じて対策の加速化を図ることとしています。

去年は、生成AIの活用に大きな注目が集まりましたが、人口減少社会における担い手の確保が各分野で課題となる中、農業農村整備分野においても、デジタル技術の活用による業務の効率化は必要であり、今後、施設の維持管理の側面から、効果的な活用方法を検討してまいりたいと考えています。また、燃料価格等の高止まりが続いている状況であり、施設の省エネルギー化や地域の実情に応じた再編整備など、維持管理の負担軽減を図る取組についても進めてまいりますので、会員の皆様の更なる御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして幸多き発展の年となりますよう祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
農村振興課長 岩田 則和

会員の皆様方には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、元日に発生した令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈り申し上げるとともに、被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。

さて、皆様方には、日頃より農業農村整備事業を通じ、本県の農業・農村の振興に、御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類感染症に移行し、コロナ禍前に行われていた様々な交流や行事が再開されるなど農村地域でも活気やにぎわいが戻りつつあります。

昨年は、輸入物価の上昇などに伴う物価高の影響が強く、我が国の食料供給に対する懸念が広がった年であり、国において、燃料・生産資材等の価格高騰に対する即効性のある政策や、「食料・農業・農村基本法」の総合的な検証・見直しという中長期的な政策を掲げ、食料安全保障強化の取組が進められたところです。

本県でも、人口減少や高齢化による担い手不足、荒廃農地の増加に加え、肥料・燃油・資材高騰など農業を取り巻く状況は厳しさが増しており、次代を担う力強い担い手の確保・育成、経営の効率化に向けた農地の集積・集約化に加え、地域の特色ある農業生産活動が継続できるよう、関係者が一体となった取組を進める必要があります。県では「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」や「21おかやま農林水産プラン」に基づき、農林水産業が儲かる産業として確立するための各種施策の推進に取り組んでおります。

特に、重点施策である農地の集積・集約化については、昨年4月施行の改正農業経営基盤強化促進法を踏まえ、地域の将来の農業や農地利用に関する目標等を定めた地域計画をもとに、農地の効率的利用や生産性の高い担い手の育成が図られるよう、農地中間管理事業を活用した取組等を進めることとしております。

さらに、中山間地域の農業・農村の活性化を図るため、荒廃農地の発生防止や多面的機能の維持・発揮に向けた日本型直接支払制度を推進するほか、農村RMO形成に向けた取組の支援、農家民宿、直売所など食や地域観光資源等を結び付けた魅力向上にも取り組むこととしております。

本年も、会員の皆様と力を合わせ、粘り強く諸課題の解決に取り組んでまいり所存でありますので、引き続きの御支援と御協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、

皆様方の御健勝と御繁栄を祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。

令和6年度農業農村整備事業関係予算確保に向けた要望活動 —岡山県土地改良事業団体連合会・岡山県農業農村整備事業推進協議会合同—

令和5年11月1日～2日、岡山県土地改良事業団体連合会及び岡山県農業農村整備事業推進協議会は、財務省、農林水産省、自由民主党及び岡山県関係国会議員に対し、令和6年度農業農村整備事業関係予算確保に向けた要望・提案活動を行った。

県内の農業農村整備事業を安定的・計画的に事業執行するため、現場ニーズに応えられる規模の農業農村整備事業関係予算を確保すること、ため

池の防災・減災対策の更なる推進を図ること、土地改良施設の維持管理に係る電気料金等の高騰対策を講じ土地改良区の運営体制強化を図ることを提案した。

今回の活動には当会の副会長理事である山崎鏡野町長、県内土地改良区から大天理事長（滝谷池土地改良区）、山本理事長（山手土地改良区）の3氏が参加し、地域の実情を訴えるとともに、積極的な意見交換を行った。



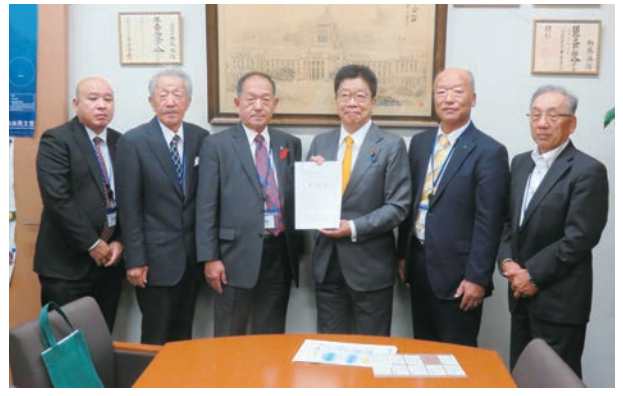
長井農村振興局長【農林水産省】



緒方整備部長【農林水産省農村振興局】



佐藤財務大臣政務官【財務省】



加藤衆議院議員



宮崎参議院議員



小野田参議院議員

農業農村整備の集い —農を守り、地方を創る予算の確保に向けて—

令和5年11月7日、東京都千代田区の砂防会館別館「シェンバッハ・サボー」において「農業農村整備の集い—農を守り、地方を創る予算の確保に向けて—」（主催：全国土地改良事業団体連合会、都道府県土地改良事業団体連合会）が開催され、国会議員や農林水産省幹部など全国から土地改良関係者が集結した。

冒頭、全国土地改良事業団体連合会の二階会長から開会挨拶をいただき、祝辞では宮下農林水産大臣、高市経済安全保障担当大臣、進藤会長会議顧問が挨拶し、予算確保や土地改良の推進への尽力を誓った。

続いて、令和6年度の全国土地改良大会開催県である千葉県土連の小島参事が要請書（案）を朗読し、全会一致で採択された。

その後、宮崎会長会議顧問からの情勢報告や全国水土里ネット女性の会の根本会長から新たな取組の



報告があり、最後は全国水土里ネット女性の会の根本会長、西副会長らによる力強い発声に合わせ、参加者全員による“ガンバロウ三唱”で閉会した。

閉会后、岡山県からの参加者は、採択された要請書により岡山県選出の国会議員などへ要請活動を行った。

要 請 書

- 一 土地改良事業の計画的な推進のため、必要な予算を安定的に確保すること。
- 二 食料・農業・農村基本法の見直しに当たっては、次の観点に留意して必要な規定を盛り込むとともに、関連する制度や事業・支援の一層の充実を図ること。
- 三 大規模災害からの復旧・復興や再度災害防止の取組を早急に進めること。また、災害対応のデジタル化など、事務手続の効率化等に向けた取組を推進すること。
- 四 農業の競争力強化のため、農地の集積・集約化、米から高収益作物への転換、スマート農業の導入を促す農地整備を引き続き推進すること。
- 五 農村地域の国土強靱化のため、老朽化した農業水利施設の更新・長寿命化や、豪雨・地震対策等を引き続き推進するとともに、燃料価格や電力料金が高騰する状況下においても安定的な用水供給等が可能となるよう対策を推進すること。
- 六 ICT、AI等の先進技術を活用して、土地改良施設の管理の省力化・高度化等を図る取組を推進すること。
- 七 中小規模の土地改良区を対象とした合併など、土地改良区の運営基盤強化に対する支援を推進すること。
- 八 流域治水の取組推進に当たっては、関係する農業水利施設の管理者や田んぼダムに取り組む農業者に過度な負担や責任が生じないよう配慮すること。
- 九 水田活用の直接支払交付金の見直しに伴う水田の畑地化を進めるに当たっては、現場の実情を踏まえ、引き続き必要な措置を講ずること。
- 十 上記事項の推進に当たり、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。

令和5年11月7日

全国土地改良事業団体連合会
都道府県土地改良事業団体連合会

令和5年度農業農村整備事業地域推進会議を開催

土地改良関係者に農業・農村の振興に係る情報を提供し、共通認識を深めるとともに、農業や地域振興の一層の推進を図ることを目的とした農業農村整備事業地域推進会議を県内3ヵ所で開催した。

会議には会員市町村首長をはじめ、岡山県の農業農村整備事業関係者、市町村職員、土地改良区の役職員、県土連職員等、3会場（備前：岡山プラザホテル、備中：アパホテル倉敷駅前、美作：ザ・シロヤマテラス津山別邸）あわせて153名が参加した。

会議では、中国四国農政局農村振興部土地改良管理課から「土地改良区役員の役割及び土地改良区における男女共同参画について」、岡山県農林水産部から「岡山県の農業農村整備事業について」の講演をはじめ、岡山ため池保全管理サポートセンターからの活動報告が行われた。講演後は、土地改良区における男女共同参画について、土地改良施設の管理について、中山間直払い・多面的支払い活動組織ユニオン事業についてなど多くの質疑応答があり、とても有意義な会議となった。参加者のアンケートでは、ため池の管理について、土地改良施設の改修について、新規就農者の受け入れについてなど幅広い要望・意見が多く寄せられた。

会議終了後は、約4年ぶりとなる意見交換会を開催し、久しぶりの交換会に時間が足りないほど話に花が咲き、活発な意見交換の場となった。



【備前会場】



【備中会場】



【美作会場】

開催日	会場	参加人数内訳					
		講師	県	市町村	改良区	県土連	合計
11月10日(金)	岡山プラザホテル	2	8	8	28	10	56
11月14日(火)	アパホテル倉敷駅前	3	8	5	16	10	42
11月16日(木)	ザ・シロヤマテラス津山別邸	3	6	11	24	11	55

おかやま水土里ネット女性の会土地改良区訪問

令和5年11月28日、設立3年目となる「おかやま水土里ネット女性の会」は、会員同士の交流を更に深め、土地改良区やその地域の農業を実際に見ることで知見を広めることを目的とした「土地改良区訪問」を行った。

訪問したのは瀬戸内市の牛窓町土地改良区。日本のエーゲ海と称される瀬戸内海に面した風光明媚な場所にあるこの土地改良区は、地区面積約730ha、組合員約1,050名で、国営及び県営事業によって整備された畑地かんがい施設によって農業が営まれ、県下でも有数の路地野菜の生産地となっている。主要作物は白菜、キャベツ、冬瓜、カボチャで、特に白菜は「冬黄白菜」、キャベツは「牛窓甘藍」といった高品質な牛窓ブランドを確立し、全国に広く知られている。

まず、土地改良区会議室（市役所内）で職員から業務の説明を受けた。参加した会員が所属する土地改良区は水田農業のところのもあれば、畑地中心のところもあり事情は異なるものの、関心事である賦課金と電気料金について活発に質問をしていた。

次に、場所を変えて農地を見学した。この日は天



候にも恵まれ、穏やかな瀬戸内の海を背景になだらかな丘陵地帯に植えられた白菜やキャベツの緑が広がり、牛窓らしい風景が楽しめた。

参加者は白菜畑を前に国岡理事長の説明に興味深く聞き入り、植付、栽培、草取り、収穫、収益について次々と質問していたが、理事長は「いいものを作ることをいつも念頭においている。いいものさえ作れば農業はやっていける。」「今の農業ができるのは畑かんのおかげ。畑かんがなければ今のような農業経営は不可能」と力強く話していた。

また、今回は給水栓からホースを接続して畑に水を撒く手順を実演していただくことができた。

牛窓で栽培している「瀬戸内レモン」をお土産にいただき、最後に、オリーブ園の近くにあるファームポンドに行き見学を終了した。

参加者からは「畑かんという言葉は聞くけど、実際どのようなことをしているのかよくわかってよかった。」「牛窓に来るのは初めて。どんな野菜を作っているのか見ることができた。」「今まで話すことがなかった土地改良区の人と話すことができた。」等の声があった。



児島湖流域清掃大作戦に参加

令和5年11月5日、児島湖流域環境保全対策推進協議会の主催で、児島湖及び流域河川の計7ヵ所において、一斉清掃が行われた。地域住民をはじめ各種団体から約2,300名が参加し、約8tのゴミが回収された。

会場の一つである児島湾締切堤防には当会職員の16名を含む約580名が参加し、湖岸への漂着ゴミや不法投棄ゴミを回収した。

当会では、引き続き児島湖流域の環境保全活動に積極的に参加したいと考えている。



小阪部川ダム施設保全活動に参加



令和5年11月28日、高梁川用土地改良区が主催する小阪部川ダム施設保全活動が開催され、当会から2名が参加した。

小阪部川ダムは、岡山県南にある市町の水田に農業用水を補給する重要な役割があり、その他にも水道水や水力発電としても活用されている。また、この地域は岡山県から「高梁川上流県立

自然公園」に指定されており、美しい景観の保全保護が推進されている。

行政関係者や地域住民など約25名が参加し、約2時間をかけて管理事務所に隣接した公園周りの草刈りや水路の補修作業等を行った。



第66回学校農業クラブ岡山県大会



令和5年11月14日、岡山県立瀬戸南高等学校において第66回学校農業クラブ岡山県大会が開催された。

この大会は、農業関係高校8校で構成する「岡山県学校農業クラブ」の生徒が、日頃の活動の成果を発表し、クラブ員相互の研修と交流を深めることによって将来の農業の担い手を育成するとともに、産業人としての資質向上を図ることを目的に毎年開催されている。当会は測量競技（セオドライトの部）の最優秀賞の受賞者に対し、岡山県土地改良事業団体連合会会長賞を授与した。

未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2023 受賞作品決定

未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展（主催：全国水土里ネット、都道府県水土里ネット）は、農業・農村の素晴らしさと重要性を次世代に引き継いでいくため、絵画を通して子供たちに田んぼや農村に関心を持ってもらうとともに、大人たちへのメッセージとして子供のまなごしを届けることを目的として、全国の小学生以下の児童を対象に2000年から実施している。

今回の絵画展では、全国から約3,000点の応募があり、10月5日～6日に開催された審査会において農林水産大臣賞等6点、協賛企業・団体賞25点、地域団体賞52点、入選142点、佳作175点が選ばれました。

岡山県からの入賞、佳作作品は次のとおり。

入選（地域団体賞） 「晴れの国 水土里ネット岡山会長賞」



「実りの恵み」

吉村 陽之助さん（赤磐市立山陽小学校6年）

佳作作品



「生き物たちにも大切な田んぼ」

安藤 あかねさん（赤磐市立山陽小学校3年）



東京都美術館での展示の様子

岡山県の土地改良 題字：石井正弘書 第615号 令和6年1月4日発行

発行所●岡山県土地改良事業団体連合会 〒700-0824 岡山市北区内山下1丁目3番7号 県土連ビル
☎086-225-0921 fax086-226-0068
総務部 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館3F・2F
☎086-207-2200 fax086-207-2202 e-mail:info@okadoren.or.jp http://www.okadoren.or.jp
岡山ため池保全管理サポートセンター 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館2F
☎086-207-2324 fax086-272-3937
ため池相談窓口(月、木) ☎086-207-2282
事業部 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館2F
☎086-273-2110 fax086-272-3937
事業部技術第三課 〒708-0051 津山市椿高下128-1
☎0868-35-2178 fax0868-35-2179

